

大学の社会的責任（USR）活動を 評価・改善するための指標づくり －SDGs達成に向けて－

千葉商科大学

齊藤紀子（人間社会学部）

橋本隆子（商経学部）

奥寺 葵（商経学部）

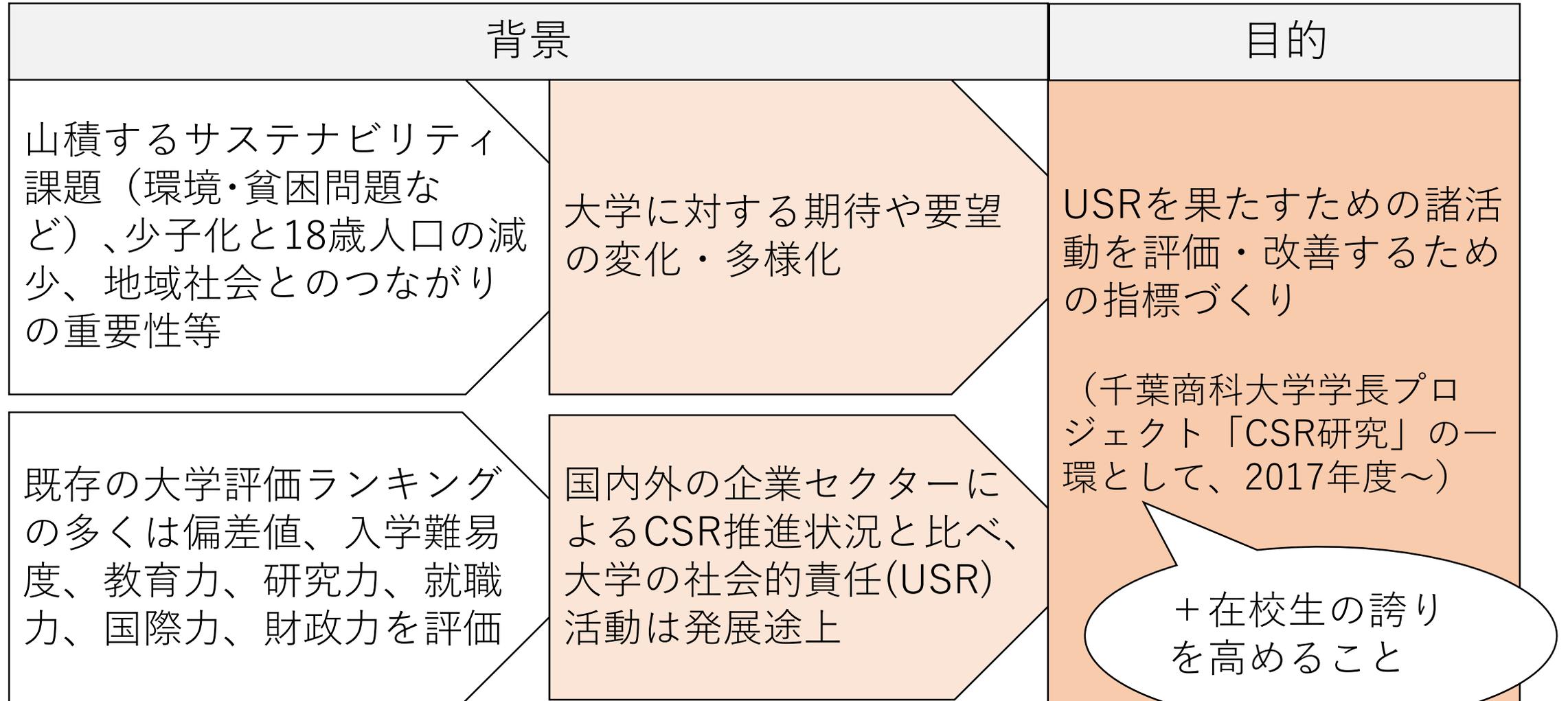
杉本卓也（政策情報学部）

安藤 崇（商経学部）

本日の報告の流れ

1. 本研究の背景・目的
2. USR評価指標づくりの考え方
3. 2017年度～2020年度の研究・活動成果
 - 3-1. 2017～2019年度の活動成果
 - 3-2. 2020年度の活動進捗
4. 今後の展望・課題
5. 主要参考文献・資料

1. 本研究の背景・目的



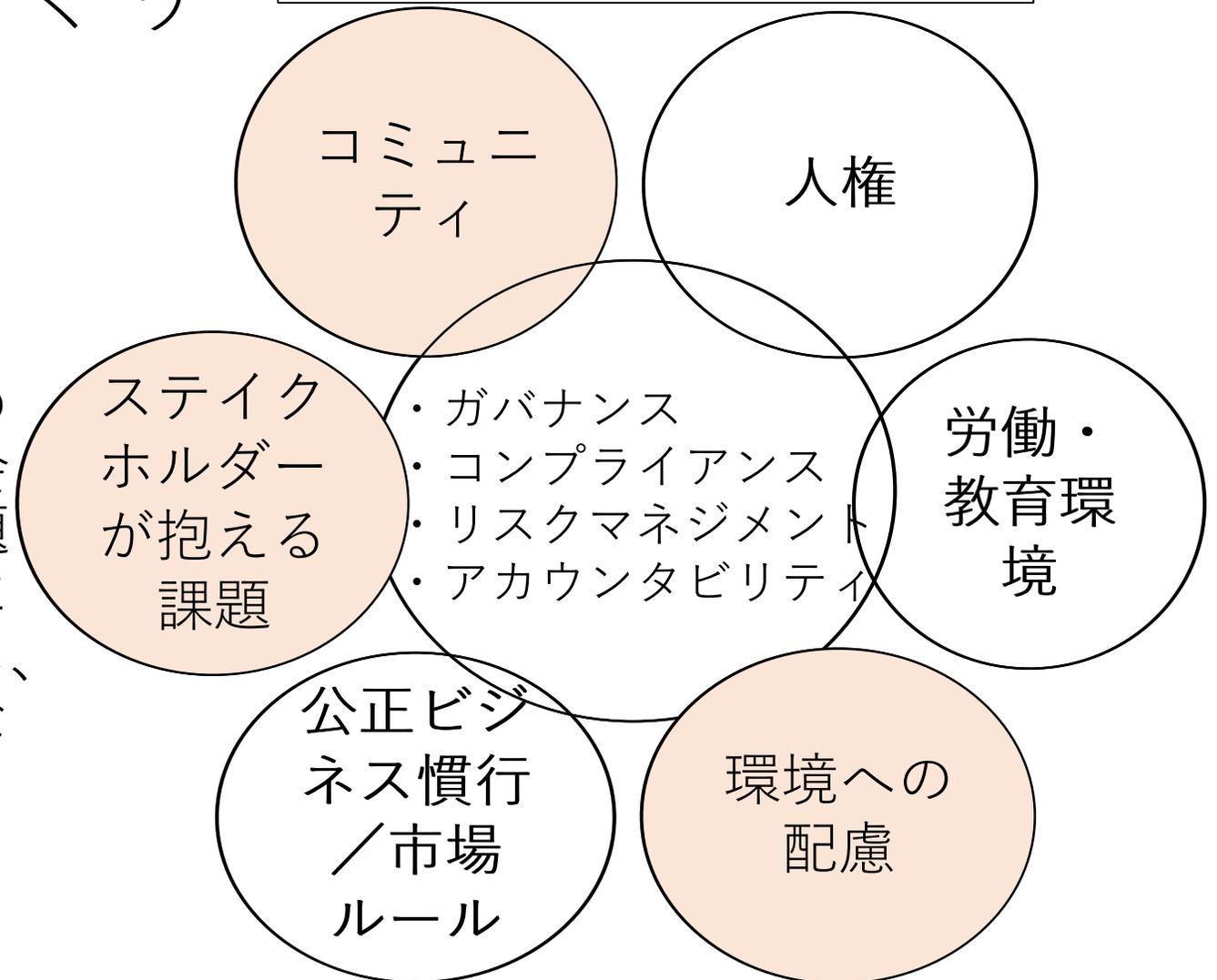
2. USR評価指標づくり の考え方

USRとは

大学が教育・研究等を通じて建学の精神等を実現していくために、社会（ステイクホルダー）の要請や課題等に柔軟に応え、その結果を社会に説明・還元できる経営組織を構築し、教職員がその諸活動において適正な大学運営を行うこと

(USR研究会2006)

USRの7つの中核課題



(出所) USR研究会 (2006) をもとに作成

先行する取り組みとその課題



University of Indonesia Green Metric
World University Ranking (2010～)



Times Higher Education Impact
Rankings (2019～)

- 途上国から先進国までのあらゆる大学が回答可能な指標の設定が難しい
- 一般的な認知度はまだ低く、「USR活動の促進」という機能はこれから

USR研究会による課題群やこれらの新しいランキング指標を参考にして、（日本国内の一定地域のような）限定的に適用可能な指標を独自に創り、USR活動の促進に寄与することを目指した。

3. 2017～2020年度の研究・活動成果



3-1. 2017～2019年度の活動成果

研究教育

マテリアリティ	関連するSDGs		アクションアイテム (改善点)	仮説	KPI	
					定量データ	定性データ
国際的人材育成		4.17	交流機会を増やす	交流を増やす、資格サポート、入学後のイベントサポート	<ul style="list-style-type: none"> ・留学人数 ・提携校数 ・ユニバーシティースクエアを利用した事がある人数 ・語学に興味がある割合 ・語学の授業にその国のSAがついている割合 ・語学検定を受けたことがあるか 	・何故インターナショナルスクエアを利用するのか
奨学金問題		1.2.4.8.10.16	授業料減免者を増やす	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金の種類を増やす ・奨学金の給付制を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金制度を利用している割合 ※千葉商科大学の場合 ・学費給付支援機構1.2% ・日本学生支援機構14% ・給付生授業料減免制度2.6% 	・何故奨学金制度を利用するのか。
SDGsに関する研究プロジェクト		3.8,4.7,7.1,12.4.8,13.1,17.17	SDGsによる環境と教育の向上、改善	地域活動～貢献、地域活性化に繋げる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動への参加 ・アクティブラーニングの質と参加率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングの満足度調査データ ・ボランティア参加の割合 ・アクティブラーニングの参加率 	<ul style="list-style-type: none"> ・何故そのボランティアに参加したのか ・アクティブラーニングの理解度調査
教員や授業に関する改善と重要課題		4	適切な授業内容 適切な教室環境 適切な授業内容	学費と授業満足度 SAの存在意義 授業人数満足度 授業時間満足度	<ul style="list-style-type: none"> ・授業満足度調査 1.授業、講義の内容 2.教室などの学内設備 3.授業カリキュラム 4.教職員の学生に対する態度 5.18年度春学期授業評価アンケート 	・授業を履修したことでどう役立ったか。

学生生活の改善（消費者課題）

マテリアリティ	関連するSDGs	アクションアイテム (改善点)	仮説	KPI		
				定量データ	定性データ	
<p>・1人1人の学生の大学生活に対する満足度を向上させる</p> <p>・キャンパス整備</p> <p>・社会的起業家マインド・知識の涵養及び実践</p>		<p>2-1</p> <p>7-3</p> <p>8-6</p> <p>9-1</p> <p>10.2</p> <p>12.7</p>	<p>・快適な学生生活</p> <p>・キャンパス整備計画策定（よりよい環境の実現）</p> <p>・学生により使いやすい快適な施設を提供</p> <p>・学生が働きやすい環境の整備</p>	<p><生協、学食></p> <p>1. 購買販売スペース拡張</p> <p>2. 店舗数の増大</p> <p>3. 昼食時の空き教室の利用削減</p>	<p>・昼休みに購買で並んでいる人数</p> <p>・並びはじめからかかる時間</p> <p>・昼食の購入場所</p> <p>・昼食の場所</p>	<p>・なぜその場所で購入するのか</p> <p>・なぜその場所を選んだか</p> <p>・生協への改善要望</p>
			<p><ベンチャー食堂></p> <p>1. 人員不足の改善</p> <p>2. 学生と教職員の情報共有</p> <p>3. 席数の増加</p>	<p>・学生食堂の設備に対する満足度</p> <p>・席数の満足度</p> <p>・効率の良さ</p>	<p>・人員不足の影響、問題点</p> <p>・男女別の席の使いやすさの比較</p>	
<p>・超スマート社会に移行していく中で学生、教職員がICTツールを使いこなせるようになる</p>		<p>1.4</p> <p>2.1</p> <p>4.3</p> <p>7.3</p> <p>9.a</p> <p>11.1</p> <p>12.2</p> <p>15.2</p>	<p>・ICTツールの利用を促進する環境とサポート体制を整える</p> <p>・学生が快適に学生生活を送れるキャンパスを、学修と学生生活の面から整備する</p>	<p><PC、ペーパーレス></p> <p>1. 学生がパソコン持参</p> <p>2. 授業で使用する紙の枚数を減らし、タブレット、pcを使った授業を行う。会議も同様</p>	<p>・PCの利用場所</p> <p>・ペーパーレス認知度</p> <p>・授業で使っている紙の枚数・頻度</p>	<p>・PC環境への不満</p> <p>・講義で配布する紙の必要性</p>
			<p><CUC Portal></p> <p>1. 使いやすいCUCポータル（例：教科書販売、履修登録、操作回数など）</p>	<p>・ポータルの使いやすさ</p> <p>・メールの利用しやすさと頻度</p> <p>・教科書販売など</p>	<p>・ポータルに欲しい機能</p> <p>・不便だと思う点</p> <p>・改善要望</p>	

地域社会との繋がり

マテリアリティ	関連するSDGs		アクションアイテム (改善点)	仮説	KPI案	
					定量データ	定性データ
施設開放 (学生食堂・ 図書館など)	 	11.7 11.b 17.16	開かれた大学づくり	<ul style="list-style-type: none"> 大学のイメージ向上 地域の人々との繋り深化 災害時のリスク低減 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者・非利用者の割合 利用人数・頻度 (有料施設は) 売上 	<ul style="list-style-type: none"> 開放施設名 利用施設名 大学のイメージ (変化) 改善点
学生による社会活動 (ボランティア等)	         	2.2、3.6 9.1、11.a 14.1 15.2 15.4 15.5 17.16	大学による社会活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> 大学のイメージ向上 大学に対する関心の高まり 地域の人々との繋り深化 	<ul style="list-style-type: none"> 地域との繋がりづくりの経験有無の割合 活動頻度 参加人数・危機管理マニュアルの有無 	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容 地域ニーズ 活動前と後の変化
社会 (学校・行政・企業) との協働 外部NPO/ NGOからのインプット	    	4.3 4.7 8.9 9.1 11.7 17.17	協働でのプロジェクト ・研究促進	<ul style="list-style-type: none"> 大学のイメージ向上 地域の人々との繋り深化 研究教育力の向上 地域の文化振興・産品販促 持続可能な観光業促進に貢献 パートナーシップ推進 	<ul style="list-style-type: none"> 協働プロジェクト数 (含：共同研究、協定、特許、共同開発商品等) 協働プロジェクトへの参加経験有無の割合 外部講師数 SHミーティング有無 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト内容 協働組織の多様性 外部講師が担当するサステナビリティ課題
教育機会の提供 (公開講座・出前授業など)	  	4.3 8.6 11.3	教育研究機会の提供・還元	<ul style="list-style-type: none"> 大学に対する関心の深化 進学率上昇、知識を持つ人増加 就労/就学/職業訓練のいずれも行っていない若者減 参加的・包括的社会の促進 	<ul style="list-style-type: none"> 公開講座/イベントへの参加者数の変化 (昨対) 参加リピート率 参加者の年代・男女構成 満足する講座価格 継続意欲の有無 受講者における地域活動への参加者数の変化 	<ul style="list-style-type: none"> 講座内容 講座の満足度 参加者にとってどう役立ったか どこで知ったか 受講者間の人間関係の変化

環境問題への取り組み

マテリアリティ	関連するSDGs		アクションアイテム (改善点)	仮説	KPI	
					定量データ	定性データ
エレベーター 使用の改善	 		<ul style="list-style-type: none"> エレベーター 階段 	<ul style="list-style-type: none"> 必要な人が必要な時に使用できる 健康 エネルギー消費改善 	<ul style="list-style-type: none"> エレベーター利用と会談利用の移動時間の比較 	<ul style="list-style-type: none"> 啓発ポスター
教室で使われるエネルギーの改善		7.2 7.3	<ul style="list-style-type: none"> 照明 窓 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギーの無駄遣いを減らす 自然エネ100%大学 	(パトロール) <ul style="list-style-type: none"> 教室ごとの照明使用状況の確認 窓の開閉の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 啓発ポスター
ゴミ・リサイクル・水使用	    		<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物の削減 リサイクルの推進 水使用の改善 	(特に水) <ul style="list-style-type: none"> 資源の有効利用 噴水稼働による電力消費 	<ul style="list-style-type: none"> 年間の廃棄物の量 リサイクルの状況(量・率) 水使用の現状 	<ul style="list-style-type: none"> 他大学の取り組みを参考になるかも

3-2. 2020年度の活動進捗

2020年度の活動のねらい

- 2019年度までに開発した指標・KPI案をWithコロナのニューノーマルを考慮し再検討・絞り込み
- 他大学におけるUSR活動評価・改善のための自己チェック表を作成

	マテリアリティ	KPI		他大学が回答／自己評価するための質問案 (※評価対象は、原則として直近の前年度とする)
		定量データ	定性データ	
全般	SDGs認知度（教職員および学生）	SDGsを知っている人の割合	SDGs理解の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員および学生のSDGs認知度 ・（知っていると答えた回答者の）SDGsを知った場・機会（講義／業務／地域活動など） ・教職員および学生のSDGs理解度（SDGsとはどのようなものだと思うか）
	自大学の取り組みの自己評価および情報開示		USRレポート／サステナビリティレポート／統合レポートの有無	<ul style="list-style-type: none"> ・USRレポート／サステナビリティレポートあるいは統合レポートといった、非財務情報を開示するメディアを持っているか ・大学案内ツールにUSR／SDGsへの取り組みに関するページがあるか

中核課題	マテリアリティ	KPI		他大学が回答／自己評価するための質問案 (※評価対象は、原則として直近の前年度とする)
		定量データ	定性データ	
研究教育	奨学金問題	大学独自の学生支援制度、社会的状況に応じた支援（ルーター・パソコン貸出、通信費、生活費）の周知度、応募数、参加者数	学生満足度	<ul style="list-style-type: none"> 学生の「学び」を支援するための大学独自の制度があるか（周知方法、実績も） 社会的状況に応じた学生支援制度があるか（周知方法、実績も）
	国際的人材育成（留学・語学研修）	ダブルディグリー、学生交流イベント、留学生受入人数、語学研修制度の周知度、応募数、参加者数	学生満足度	<ul style="list-style-type: none"> 国際的人材育成のため、支援制度があるか。 当該支援制度の利用人数
	SDGsに関する研究プロジェクト	プロジェクト数（活動期間、活動人数）	プロジェクト内容、成果（知的・物的）	<ul style="list-style-type: none"> 学内にSDGsを研究する組織（プロジェクト）があるか（プロジェクト数、活動期間、活動人数） 当該組織（プロジェクト）の役割は何か？ 学内・学外のSDGsの理解促進や浸透のために、活動しているか。
	教員や授業に関する改善、授業における重要課題	教員の多様性、ツールの多様性（平均受講者数）、（ST比）、（出席・課題提出率）、（Complete率）、	教員の満足度（ツール使いやすさ、サポート、授業のしやすさ）	<ul style="list-style-type: none"> 教員が授業運営しやすいように、また学生の理解度を高めるためのツールや取り組み
学生生活の改善（消費者課題）	適切な学習環境（オープンPC状況調査、提案）	（オンライン）授業数、種類（オンライン、AL、対面、ユニバーサル、受講方法の多様性）、	授業満足度（オンライン、リアル） Wifi繋がりのやすさ	<ul style="list-style-type: none"> 授業満足度（オンライン、リアル）と前年度比 IT環境（クラウド、学内LAN、オンライン講義用ツール）がどれくらい整備されているか
	適切な学生交流（傾向、理由調査）	学生交流イベント数 参加者数	学生満足度 イベント内容	<ul style="list-style-type: none"> （授業外）学生交流イベント数、形態（オンライン、リアル）、参加者数、課外活動満足度と前年度比
	キャンパス環境、施設などの改善（学食状況調査、提案）	学食座席数 図書館他施設利用回数・人数	学生満足度 利用目的	<ul style="list-style-type: none"> 施設のオンライン化状況（図書館他） 施設の利用者数（リアル、オンライン）と前年度比
	資格取得（みずほ会、その他資格の体制調査、提案）	資格講座数 認知度	学生満足度 資格内容	<ul style="list-style-type: none"> 対象資格数、資格講座数と形態（オンライン、リアル）、参加者数と前年度比、学生認知度
	キャリアサポート（希望に叶う就職支援体制の評価）	キャリアイベント数 就職率	学生満足度	<ul style="list-style-type: none"> キャリアイベント数と形態（オンライン、リアル）、参加者数と前年度比、学生満足度、就職率

中核課題	マテリアリティ	KPI		他大学が回答／自己評価するための質問案 (※評価対象は、原則として直近の前年度とする)
		定量データ	定性データ	
地域社会との繋がり	施設開放（学生食堂・図書館など）	利用人数（延べ人数）	施設の利用目的	・開放施設利用人数（延べ人数）と前年度比
	学生による社会活動（ボランティア等）	ボランティアや活動型ALへの参加人数（延べ人数）	ボランティアや活動型ALの活動内容	・学生が参画する社会活動（ボランティア等）への参加学生の人数（延べ人数）と前年度比 ・その活動内容はSDGsの17ゴールの内、どのゴールに貢献しているか。
	社会（学校・行政・企業）との協働（イベント共催・地元名物の共同開発など） 外部NPO/NGOからのインプット（専門家招聘など）	協働プロジェクト数	協働プロジェクトの内容	・行政・企業・NPO等との協働によるイベントやプロジェクト（オンライン/リアル）が何件あるか。 ・その内容はSDGsの17ゴールの内、どのゴールに貢献しているか。
	教育機会の提供（公開講座・出前授業など）	公開講座/イベント（オンライン/リアル）への参加者数（延べ人数）	講座/イベント（オンライン/リアル）の内容	・公開講座やリカレント教育（オンライン/リアル）への参加者数（延べ人数）と前年度比 ・それら講座内容はSDGsの17ゴールの内、どのゴールに貢献しているか。
環境問題への取り組み	ゴミのリサイクルの実施、分別回収（2016年度5万3千kgから減量）	廃棄量／リサイクル量	意識啓発の実施	・廃棄物の廃棄量／年（分別回収の有無やリサイクル量） ・キャンパスが複数個所の場合は、キャンパス毎や総計
	エネルギー（電気・ガス）の使用量の削減	使用量（の推移）	意識啓発の実施	・年間エネルギー使用量（電気、ガス、再エネ率）
	水の無駄使いの削減	使用量（の推移）	意識啓発の実施	・年間水使用量（上水や中水の使用状況、井戸・地下水を利用している場合は、その使用状況）
	教職員と学生の連携（環境情報の見える化、情報共有、意識の醸成）	連携の取組みの実施数 学生生活調査等での認知状況	掲示板やwebサイトでの公表内容	・教職員や学生が知る機会はあるか？（入学前・後） ・実施している連携の取組みの内容は？

4. 今後の展望・課題

今後の展望

- 定性的・定量的指標を用いたアクションプランの立案→活動→結果の評価→継続的フォロー、という一連の手立てを講じること
- 本学では：中長期計画（の見直し）への本指標の提案、達成度評価指標への組み込み、進捗確認
- 他大学では：USR活動の自己評価指標への組み込み

今後の課題

- USR研究会が示した7つの中核課題のうち「ガバナンス・コンプライアンス・リスクマネジメント・アカウンタビリティ」「人権」「労働・教育環境」「公正ビジネス慣行・市場ルール」にかかる検討
- 今回提案した指標案の継続的検討・見直し

5. 主要参考文献・資料

- Carol Adams (2018) Let's talk value: How universities create value for students, staff and society, Advance HE , <https://www.Ifhe.ac.uk/en/research-resources/publications-hub/lets-talk-value.cfm> (2020年9月25日確認)
- Times Higher Education “University Impact Ranking”
<https://www.timeshighereducation.com/rankings/impact/2020/overall> (2020年9月1日確認)
- University of Indonesia “Green Metric World University Ranking”
<http://greenmetric.ui.ac.id/> (2019年10月12日確認)
- Wigmore-Álvarez, A., & Ruiz-Lozano, M. (2012) ‘University social responsibility (USR) in the global context: An overview of literature’. *Business and Professional Ethics Journal*, 31(3/4), pp.475-498.
- 私立大学社会的責任 (USR) 研究会 (2004, 2005, 2006, 2007) 『私立大学の社会的責任に関する研究報告』
- 私立大学社会的責任研究会 (2008) 『USR入門—社会的責任を果たす大学経営をめざして』